

平成 29 年 2 月 24 日

農林中央金庫福島支店
株式会社日本政策金融公庫
福島支店

“只見町産米”のブランド化を支援 ～新設法人が中山間地域農業を活性化～

農林中央金庫（略称：農林中金）福島支店と日本政策金融公庫（略称：日本公庫）福島支店農林水産事業は、南会津郡只見町で稲作及び米焼酎の製造、販売を開始する「合同会社ねっか」（以下、当社）の事業立ち上げを連携して支援しましたので、お知らせします。

○地域活性化に向けた新設農業法人による挑戦

只見町を含む中山間地域の農業は、担い手の減少等による農業生産基盤の弱体化が懸念されています。

そのような中、只見町の地元農業者等が新たに農業法人合同会社ねっかを立ち上げ、農地の維持・拡大や作業の効率化、低コスト化等をすすめることで、只見町の主要産業である水稻の維持・発展を目指しています。

さらに、当社では、経営の安定化を図るため、水稻の副産物であるこごめ小米に着目し、自社の小米を活用した米焼酎の製造販売にも取り組んでいくこととし、地域の特産品を主原料とする「特産品しょうちゅう」の製造免許を県内で初めて取得しました。

こうした取組みは、“只見町産米”のブランド化や地域活性化につながると期待されています。

○農林中金・日本公庫が連携して新設農業法人を支援

農林中金は、合同会社ねっかの事業構想をふまえた資金計画策定の支援などを行い、日本公庫は、農林中金と連携し当社のビジネスモデル、米の生産や日本酒の醸造経験等の経営者能力等を評価し、事業立ち上げの資金として青年等就農資金3,500万円の融資を実行しました。

合同会社ねっか代表社員の脇坂齊弘さんは「南会津の豊かな自然・地域を農業と米焼酎という商品を使って、次の世代に受け継いでいきたいです。」と意気込みを語っています。

農林中金及び日本公庫は、今後とも経営支援や融資により、東日本大震災からの復興、農業の成長産業化に向けた取組みを積極的に支援して参ります。

以上

1 支援先の概要

事業 者	合同会社ねっか ※ねっかの由来：只見町や南会津南郷地域で使用する方言で、「ねっかさすけねえー」など、「まったく」「ぜんぜん」を意味する強調するとき使用する言葉です。可能性を否定せず前向きな気持ちでものごとをとらえ、「ねっかさすけねえー (No problem at all)」の精神で歩んでいきたいと考え、社名としました。
代表社員	脇坂 斉弘
所 在 地	福島県南会津郡只見町大字梁取字沖998番
設立年月日	平成28年7月11日
資 本 金	300万円
従業員数	5名 (役員含む)
事業内容	稲作・米焼酎の製造販売
事業規模	稲 作 水田6ha 焼酎製造 年間10.6kl (720mlビン換算約2万本)

2 当社の様子 (写真)



▲合同会社ねっかの役員の皆さん



▲当社のイメージポスター



▲米焼酎製造の様子